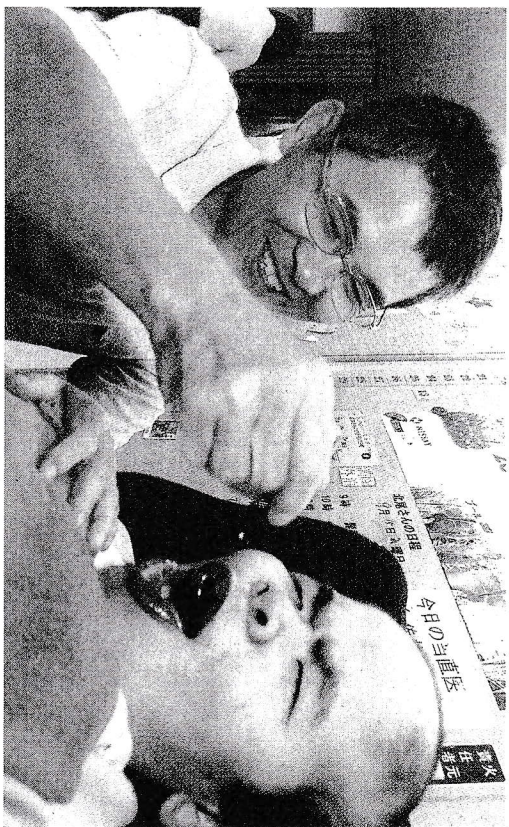


「もし自分が先に死んだら…」  
障害者の親

# 尽きぬ不安



「おさんは、私に付きっきりで介護して苦勞をけまい」と娘きた。5年前、長女が脚を痛めて立ち座りもできなくなつた。しかし母親は最近、介護施設に申し込んで、食事の世話をする高木さん。介護中は笑顔があるが、「親亡き後問題行一番の心配事」と話す。熊本市

今年8月、熊本市近見の民家で起きた父子の無理心中事件。72歳の父親が、長年介護し続けてきた寝たきりの長女(45)の人工呼吸器を外し、自らも首をうつて死した。背景には、年寄いた親が、障害がある子どもの将来を案じる「親亡き後問題」が影を落としている。

## 年老いて介護負担重く

## 行政の介人求める声も

社論は「日本では介護は家族が行つのが基本といつ考えが強いが、もはや立ち行かない。家族も行政も『他に人に任せたくない』家族がいれば大丈夫」として、法律上の支援者をつける成年後見制度を「行政はたとえ一ヒラの申し出を家族に断られても、気持ちよく解きほぐし、信頼関係をつくるのが重要。」と訴へる。熊本市

「おさんは、私に付きっきりで介護して苦勞をけまい」と娘きた。5年前、長女が脚を痛めて立ち座りもできなくなつた。しかし母親は最近、介護施設に申し込んで、食事の世話をする高木さん。介護中は笑顔があるが、「親亡き後問題行一番の心配事」と話す。熊本市

「おさんは、私に付きっきりで介護して苦勞をけまい」と娘きた。5年前、長女が脚を痛めて立ち座りもできなくなつた。しかし母親は最近、介護施設に申し込んで、食事の世話をする高木さん。介護中は笑顔があるが、「親亡き後問題行一番の心配事」と話す。熊本市

熊本日新聞  
発行所  
熊本日新聞社  
熊本市世安町172  
〒860-8506  
代表(096)361-3111  
◎熊本日新聞社 2010

2010年(平成22年)  
9月21日  
火曜日

明准教授(41)＝地域福祉  
熊本学園大の高林秀  
ろる。